

⑤ 商工と観光

「商工と観光」の概要

商 工業や観光は、受け継がれてきた技術や技能、歴史・文化など豊かで多様な地域資源を生かし発展してきました。

一方、人口減少による経済活動の縮小が懸念されるなか、市民の暮らしを支える商工観光分野の産業をさらに活発にするためには、地元企業の強化や新たな企業立地などを進める環境づくりが必要です。また、人材確保のため、若者の定着を重点に、本市で働くことに魅力が感じられるような取組を進めます。さらに、地域の魅力的な資源を生かした商工観光産業の活性化と多様な交流の促進により、若者をはじめ多くの人を惹きつける地域をつくります。



課題解決に向けた重点的な施策の方向

① 市民の暮らしを支える はたらく場の確保・振興

企業の成長力強化と、資源を生かした産業の振興を図ります。また、地域外からの企業立地や成長が期待できる企業の集積、地域内の企業や事業所設備等の投資の促進を進めます。

② 地域の活力の源となる まちの賑わいの創出

中心市街地への商業・サービス機能の集積を促進するとともに、ニーズの多様化に対応した取組の支援など、地域に根ざした魅力ある商店・商店街づくりを進めます。

③ 産業を支え発展に導く はたらく人の確保・育成

若者の地元就職と地元回帰の促進に取り組みます。また、起業・創業環境の充実や、働きやすい環境づくり、産業を担う人材の能力向上、優れた技術と技能を継承する環境づくりを進めます。

④ 高度な研究教育による 新産業創出と起業家育成

高等教育機関、研究機関の研究教育活動の充実やベンチャー企業の成長を支える環境整備に取り組み、国際競争力を持った付加価値の高い新しい産業と起業家精神に溢れる若い人材を育てます。

⑤ 鶴岡ならではの観光の振興

戦略的な観光施策の展開により、訪れたい、住みたい地域をめざし、交流人口の拡大から地域の賑わい、本市経済に波及する仕組みづくりを進めます。また、各地域の魅力的な資源を生かした誘客活動、旅行商品づくりを行い、さらに、国際観光都市をめざしたインバウンド誘客を推進します。



▶**主な成果指標(KPI)** >>各施策の達成度合を測り、施策の進行管理・見直しなどに用います。

項目(測り方)	現状値	成果指標(KPI)
従事者一人あたりの商工業等生産額	696万円/人(2015年度)	825万円/人(2028年度)
新規高等学校卒業者就職者のうち市内就職者の割合	45.0%(2018年3月卒)	66.7%(2029年3月卒)
観光入込客数	631万人(2017年度)	790万人(2028年度)

市民の暮らしを潤す力強い産業を振興し、人材を育てながら、国内外との交流を活発化させ、多くの人を惹きつける地域をつくります

>> 主な取組

●鶴岡を支える企業の成長力強化

企業の技術革新や新製品開発を支援するとともに、生産・流通現場でのAI対応など先端設備の導入を支援します。また、企業間連携及び高等教育機関との産学連携を促進し、地域企業の新たなビジネス展開を支援します。



●企業立地と投資促進

生産活動の拡大を図っている事業所や、先端生命科学分野の高度な技術集積に高い関心を持つ企業などを主なターゲットとして、新たな企業やサテライトオフィスの誘致に取り組みます。また、市内に立地する企業の設備投資の動向を捉え、事業用地のニーズに対応するため、工業用水の確保や新たな産業集積を図るインフラ整備を推進します。



●地域に根ざした魅力ある 商店・商店街づくりの促進

商工会議所や商工会などと連携し、消費者のニーズに即した販売手法や情報発信、外国人対応などの取組を支援します。また、イベントや買い物弱者対策など、商店街の垣根を越え連携した取組や新たな組織づくりを支援し、地域に根ざした魅力ある商店街づくりを促進します。



●若者の地元就職の促進

県外進学者やUIターン希望者が地元就職する契機となるよう、就職情報の発信強化や企業説明会等の開催、地元就職へのインセンティブとなる支援等により地元回帰を促進します。また、関係機関等と連携し、キャリア教育の充実と、市内の中学生、高校生、高専生、大学生などをはじめ、保護者も対象にした地元企業の紹介や就職情報の提供を強化します。

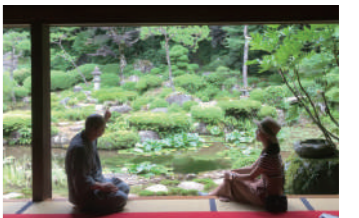
●高等教育機関等の研究成果・ 新技術を核とする新しい産業の振興

山形大学農学部、鶴岡工業高等専門学校、慶應義塾大学先端生命科学研究所、東北公益文科大学大学院の研究教育活動、さらに国立がん研究センターなどの研究活動を支援し、その研究成果や新技術に基づく事業化を進め、新たなベンチャー企業の創出と育成を促進します。



●国際観光都市をめざした インバウンド誘客の推進

鶴岡にしかない魅力を海外へ強力に発信するとともに、関係機関等と連携して外国人に向けた旅行商品の開発や提案に取り組みます。また、二次交通の確保や、外国語対応の充実、Wi-Fi等通信環境の改善など、受入環境の充実に取り組みます。



⑥ 社会の基盤

「社会の基盤」の概要

社 会基盤の整備については、恵み豊かな自然に抱かれ、歴史と伝統ある城下町の面影や、自然景観と調和した美しい農山漁村の風景を併せ持つ、鶴岡らしい歴史と景観を大切にしまちづくりに努めてきました。一方で、市街地では空き家、空き地の増加など、活力低下や空洞化が懸念されています。

コンパクトなまちづくり、交通及び情報ネットワークの充実、安心して暮らせる住環境の整備など、生活社会基盤を整え、市域内外の交流を拡大しながら、市民一人ひとりが快適に暮らせる、活力あるまちづくりに取り組みます。



課題解決に向けた重点的な施策の方向

1 快適な都市環境の形成

コンパクトな市街地を形成し、さらに地域とのネットワークでつなぐ新たなまちづくりを進めます。また、中心市街地への都市機能の集積などにより、賑わいあるまちづくりを推進します。さらに、歴史や文化を大切にしまちづくりや、公園等の整備保全を推進します。

2 交流・連携の推進と基盤の整備

物流・交流を支える高速交通ネットワークや幹線道路網の整備を促進するとともに、市道の計画的整備や長寿命化、防雪・除雪対策の充実を図ります。また、地方バスなど公共交通ネットワークの効率化や再編・整備を進め、市民の日常の移動手段を確保します。

3 安全・安心な生活基盤の整備

安心して暮らせる住環境づくりや建築物の耐震化、人口減少に対応した適切な公共施設の管理を進め、誰もが安全で快適な生活を送れる環境を整えます。また、上下水道の経営基盤を強化するとともに、安全な水の安定供給と水環境保全に努めます。

4 計画的な治水強化と市土の保全

風水害など自然災害に備えるため、河川や砂防など防災施設、海岸保全施設の整備を促進し、自然災害から市民の生命や財産を守ります。

▶**主な成果指標(KPI)** >>各施策の達成度合を測り、施策の進行管理・見直しなどに用います。

項目(測り方)	現状値	成果指標(KPI)
中心市街地居住人口の市内総人口に占める割合	5.4%(2017年度)	5.6%(2028年度)
日本海沿岸東北自動車道鶴岡西IC利用台数(台/日)	7,225台(2015年度)	11,300台(2028年度)
河川の増水による家屋被害件数	67棟(2018年10月時点)	0棟(2028年度)

自然と都市が調和したコンパクトシティの形成を進め、交通や情報ネットワークの充実により市域内外の交流を促進しながら、誰もが安全で快適に暮らせるまちをつくりま

>> 主な取組

●賑わいある中心市街地の形成

中心市街地への「まちなか居住拠点」の整備や、民間事業者の立地誘導を進め、都市機能の集積や利便性の向上など、中心市街地の再生・活性化を図ります。また、市民との対話をふまえながら、都市エリアの特性にあわせたまちづくりを推進します。



●高速道路・空港・鉄道など高速交通ネットワークの充実

日本海沿岸東北自動車道の早期開通や、山形自動車道の月山～湯殿山インターチェンジまでの整備を促進します。また、庄内空港の増便や滑走路延長、さらには羽越新幹線の整備など、高速交通基盤の整備実現に向け、近隣地域や関係機関とともに推進します。



提供：国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所

●公共交通ネットワークの形成

日常の移動手段である生活交通バス路線の維持、確保、改善に努めるとともに、路線の効率化、利便性の向上に取り組みます。また、市街地と周辺地域、集落間を結ぶ多様な交通システムの導入や、ICTの活用、まちづくりとの連携により、地域の生活を支える公共交通ネットワークの再構築を図ります。



●安心して暮らせる住環境づくり

誰でも安心して暮らせるよう、市営住宅や民間ストックを活用した住宅セーフティネットの構築を図ります。また、若者・子育て世代の定住促進につながる住環境支援や、民間組織と連携した空き家、空き地などの活用に取り組みます。

●上下水道の安全で健全な運営

上水道では、既存ストックの効率的な維持・更新によるコスト縮減や、官民連携・広域化の検討を進め、経営基盤の強化と安全な水の安定供給に努めます。また、下水道についても、経営効率化の推進とあわせて、未普及地域の解消に向けた整備や、汚泥等下水道資源を活用した「ビストロ下水道」など、循環型社会の形成を促進します。



●河川の整備と良好な維持管理

主要河川の改修を促進することにより、河川の氾濫を防ぎ、水害から市民の生命や財産を守ります。また、親水性も取り入れた美しい河川づくりを進めるとともに、市民と行政の協働により良好な河川環境を保全します。



⑦ 地域の振興

[鶴岡地域]



重点的な施策の方向

- 城下町としての面影や歴史的風情を保ちつつ、医療、福祉、商業、学術などの都市機能が集積され、地域の活力を維持する中心的な役割を果たすなか、人が集まりやすい立地の特性を生かし、様々な人々が集える場を創ります。
- 自然、歴史、文化など特色ある地域資源を活用した地域づくり活動を支援し、地域の明日を担う人材の育成を図ります。



>> 主な取組

課題解決力のあるコミュニティの構築

広域コミュニティ組織の育成・支援により活動基盤の強化を図るとともに、住民主体の地域ビジョンの策定及びその実践活動を支援します。また、関係人口を掘り起こしながら、課題解決力のあるコミュニティの構築を進めます。

多様な交流の場の創出

職業や業種などが異なる多様な者同士が集い、新たな関係づくりを促進する場を創出し、交流の中から地域の活力につながる新たな市民活動や地域活動を生み出します。

地域の明日を担う人材の育成

若者の力を地域づくりに生かすため、学生や若い世代から地域づくり活動に参画してもらう仕組みや活躍できる機会を創出し、未来に向けた人材育成と業種の垣根を越えた同世代の交流、連携を促進します。

[藤島地域]



重点的な施策の方向

- 豊かな田園文化を継承しながら、複合的農業経営への転換を進めるなど、水田農業革命の実現をめざします。
- ふじの花や獅子踊りなど地域資源を活用し、歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりを推進します。
- 暮らしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築に向け、住環境や子育て環境の充実を図ります。



>> 主な取組

農業関係機関の連携による産地ブランド化の推進

集積している農業機関との連携や有機認証のノウハウなどをフルに活用し、作る人(農家)と食べる人(消費者)双方で地域の農業を支える仕組みを構築し、国内屈指の良質米産地として、地域の物語を付加した産地ブランド化を推進します。

藤島歴史公園を活用した地域づくり

東田川文化記念館を含む藤島歴史公園「Hisu花(ヒスカ)」を拠点に、市民とともに公園づくりに取り組みます。また、イルミネーション点灯や住民参加の花壇整備などを行い魅力発信に努めます。

暮らしやすい生活基盤の整備

暮らしやすさを実感できる生活基盤の再構築に向けて、住環境の整備や子育て環境の充実を図ります。また、高齢者がいきいきと充実した生活を送れるような仕組みづくりを、地域と行政が協働して進めます。

各地域固有の特性や地域資源を最大限に生かし、地域住民が誇りと愛着を持ち、安心して暮らし続けることができる地域づくりを行います

[羽黒地域]



重点的な施策の方向

- 出羽三山とその門前町、松ヶ岡開墾場など恵まれた地域の資源を生かし、人を惹きつけ魅力あふれる観光地づくりを推進します。
- 園芸作物のブランド化を進めるとともに、月山高原ハーモニーパークを再整備して地域活性化を推進します。
- 地域の拠点施設整備や交通弱者対策などを進め、活力ある地域づくりを担う地域コミュニティを推進します。



>> 主な取組

魅力あふれる観光振興の推進

手向門前町の修景整備や出羽三山精進料理の魅力発信など門前町としての魅力向上を推進します。また、松ヶ岡開墾場の保存や活用の整備を進めるとともに、松ヶ岡地域への支援を継続します。

地域特産物のブランド化

庄内柿やアスパラガスなど園芸作物について、新規や更新の植栽支援、高品質で安定的な栽培方法の確立など、ブランド化・産地の維持拡大をめざして、生産者及び生産者組織を支援します。

地域活動センターの整備

住民活動の拠点であり、緊急時の避難場所でもある地域活動センターについて、住民が快適に利用でき、かつ非常時にも安全が確保できる施設に整備します。

[榊引地域]



重点的な施策の方向

- 「フルーツの里」として、果樹のブランド化で付加価値を高め、経営力のある産地形成をめざすとともに、都市農村交流の推進や観光の地域連携による交流人口の拡大を図ります。
- 黒川能など貴重な伝統芸能、歴史文化の保存継承と活用推進を図ります。
- 広域コミュニティや集落連携など、新たな仕組みづくりや担い手育成を支援し、地域のつながりや地域資源を生かしたまちづくりを推進します。



>> 主な取組

フルーツの里づくりと交流・観光の推進

果樹生産拠点の拡張整備をはじめ担い手育成、商品開発や販路拡大によりブランド化を推進します。また、たらのきだいたいスキー場の環境整備など自然体験を促進する取組により、交流人口の拡大をめざします。

貴重な歴史文化の継承と活用

黒川能の映像や音源の記録保存化と伝承活用、能体験のメニュー化等を支援します。また、丸岡城跡史跡公園と王祇会館への集客や利用拡大を図るとともに、伝統織物「榊引綴れ織り」の継承支援などに取り組みます。

持続性あるコミュニティと活力ある地域づくり

地域公共交通や広域コミュニティの検討、健康づくり拠点などの新たな仕組みを推進するとともに、赤川河畔などの地域資源を効果的に活用し、魅力と賑わいある地域づくりを推進します。

⑦ 地域の振興

[朝日地域]



重点的な施策の方向

- 住み慣れた地域で安全安心にいきいきと暮らしていけるよう、中山間地域における定住環境の整備を進めます。
- 森林資源をはじめとする恵まれた自然環境を活用し、中山間地に特化した農林業の振興を図ります。
- 自然・文化・風土など、多様な地域資源を活用した観光の振興を図ります。



[人口] 3,981人
[世帯数] 1,305世帯
[面積] 569.17k㎡
(H31.3月末時点)

>> 主な取組

定住環境の整備

コミュニティ施設の整備や地域内交通の確保、克雪対策など生活基盤維持の取組を支援するとともに、次世代を担う人材育成を進め、中山間地域の暮らしを守り支える取組を行います。

中山間地ならではの農林業振興

月山ワイン、山菜、そば、きのこなどの地域内農産品の生産振興や調査研究、新たな特産品開発、交流による農産物の販路拡大などを進め、中山間地型農業支援の取組を行います。

地域資源を生かした観光振興

地域の魅力ある観光資源を組み合わせた誘客に取り組むとともに、観光インフォメーション機能の整備やガイドなどの人材育成を進め、交流人口の拡大による観光振興の取組を行います。

[温海地域]



重点的な施策の方向

- あつみ温泉と道の駅を拠点とした、魅力と賑わいあふれる地域づくりを進めます。
- 体験型観光や教育旅行の受入れを進め、交流人口、関係人口の拡大を図ります。
- 在来作物や羽越しな布など、地域独自の農林水産資源のブランド化を進めます。
- 海、山など自然豊かに暮らし続けられる環境整備を進めます。



[人口] 7,203人
[世帯数] 2,752世帯
[面積] 255.40k㎡
(H31.3月末時点)

>> 主な取組

あつみ温泉と道の駅を拠点とした地域振興

温海公園(バラ園)の再整備、足湯など滞留拠点の改修や景観整備を進め、温泉街の魅力を高めます。また、新たな道路休憩施設と道の駅「しゃりん」を活用した地域産業の活性化を図ります。

農林水産資源のブランド化

在来作物や焼畑などの伝統手法を守り、継承しながら、認知度向上やブランド構築を図ります。また、「羽越しな布」の振興を図るため、後継者育成や経営体制の強化に向けた取組を支援します。

暮らし続けられる環境の構築

有線放送設備の老朽化等に伴い、新たな情報伝達システムの調査研究に取り組みます。また、コミュニティ活動への支援や、移動手段の確保など、豊かな自然の中で暮らし続けられる環境づくりを進めます。

>> 未来創造のプロジェクト

プロジェクトの目的

人口減少など、著しい社会構造の変化に対応するためには、一つ一つの施策だけでは解決が難しい課題がたくさんあります。そのため、まちづくりの基本方針に基づき、関係部署がチームをつくるなど横断的に連携して取り組むことで、相乗的な効果が期待されるプロジェクトを「未来創造のプロジェクト」として、力強く進めます。

7つのプロジェクトを駆動力に未来をつくりだす

<p>若者・子育て世代応援プロジェクト</p>	<p>全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト</p>	<p>輝く女性活躍推進プロジェクト</p>	<p>食文化・食産業創造プロジェクト</p>	<p>産業強化イノベーションプロジェクト</p>	<p>城下町つるおかリブランディングプロジェクト</p>	<p>地域国際化SDGs推進プロジェクト</p>
-------------------------	------------------------------	-----------------------	------------------------	--------------------------	------------------------------	--------------------------

>> 社会システムを整える



若者・子育て世代応援プロジェクト



人口減少に正面から立ち向かい、若者がここで活躍し、ここで暮らしたいという人が増えるよう、また、子育てが喜びとなり、鶴岡で子育てをしたいという人が増えるよう、「育む」「働く」「住む」「学ぶ」「遊ぶ」「結ぶ」の6つの視点で支援し、若者や子育て世代に選ばれるまちづくりを進めます。

>> 主な施策の方向

若者の地元回帰・定着の促進

魅力的な奨学制度などを創設し、若者の地元回帰や地元定着を促進します。また、意欲的に働くことができるよう活力に溢れた産業を創出し、若者にとってやりがいのある多様な働く場の創出を図ります。

若者の出会い・結婚の支援

若者の出会いや結婚を後押しするため、「婚シェルジュ」による個別支援や、婚活イベントなど出会いの場を提供し、地域全体で結婚を後押しする環境づくりを進めます。

安心できる子育て環境の整備

安心して子どもを生み育てることができるよう、発達障害児や医療的ケアを要する子どもへの支援の充実を図ります。

>> 未来創造のプロジェクト

>> 社会システムを整える

全世代全対象型地域包括ケア推進プロジェクト



住まい、医療、介護、介護予防及び生活支援を一体的に提供する「地域包括ケア」を、高齢者だけではなく、障害者や子ども、生活困窮を抱える人や社会的孤立状態にある人など幅広く対象に、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる社会を構築します。

>> 主な施策の方向

誰もが安心して暮らせる包括的な支援体制の整備

地域包括ケアと福祉、医療を一体的に調整・推進する「地域包括ケア推進室」を設置します。(平成31年4月設置)また、幅広い対象を支援するために、既存組織の再編や身近な場所で相談を受けられる体制を構築します。

障害者の地域生活を支える環境の整備

障害者を包括的に支える拠点機能の整備を進めるとともに、関係機関等のネットワークを構築し、障害者の自立を支援します。さらに、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参加を促す取組を支援します。

在宅医療・介護連携の推進

超高齢社会に向け、疾病を抱えても住み慣れた場で療養し、自分らしい生活を続けられるよう、地域の医療、介護関係機関が連携し、多職種協働による包括的かつ継続的な在宅医療・介護の一体的な提供を推進します。



輝く女性活躍推進プロジェクト



女性が家事、育児といった家庭内での役割を担っている割合が高い一方、就業率も高く、女性はその個性と能力を十分に発揮し、いきいきと働き活躍できる働きやすい環境を整備し、あらゆる分野において男女が互いに協力する社会づくりを推進します。

>> 主な施策の方向

男女共同参画の推進

男女共同参画の理解を深め、男性が女性の果たしてきた役割を積極的に担うなど、あらゆる分野で男女が互いに協力しあう社会づくりを推進します。

誰もが働きやすい職場づくり

女性の登用や、男性職員の育児休業の取得促進、超過勤務の縮減、柔軟な働き方の導入など、市が率先して進め、広く社会に向けて女性の活躍、働き方改革の動きを拡げていきます。

交流・学習機会の充実

職場や職業を越えて女性同士の交流やキャリア形成のための学習機会の充実に努めます。

>> 産業をのばす

食文化・食産業創造プロジェクト



四季折々の自然と山、里、海といった変化に富んだ地形がもたらす豊かな食材、それぞれの地域で伝承されてきた郷土食をはじめ、市民が親しむ多様な食文化の特徴を生かして将来にわたって農林水産業を盤石なものとして、食に関わる製造業・卸売業・小売業や宿泊業、飲食サービス業などの産業の発展を図ります。

>> 主な施策の方向

食文化創造都市の基盤整備

国内唯一の「ユネスコ食文化創造都市」に認定されたブランド力により、地元をはじめ国内外の多くの人々が地域の優れた食文化の価値を楽しみ、学べるよう受入体制や環境を整備します。

人材の確保と育成

食文化創造都市を支える、魅力的な農産物や食の提供に携わる人材の確保と育成に取り組みます。

技術を生かした農業の推進

本市の特徴でもある、持続可能な循環型農業を推進します。また、ICTやロボットなどの先進技術を積極的に取り入れた「スマート農業」の実証支援と導入を推進します。



産業強化イノベーションプロジェクト



「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」をつくる好循環を一層発展させ、高等教育機関・研究機関、電子、電機、機械等の高い技術力や開発力を有する企業等が集積しているという地域の強みを生かし、付加価値の高い地域産業や魅力あるしごとづくりを促進します。

>> 主な施策の方向

バイオ技術を核とした高度な産業集積の促進

慶応大学先端生命科学研究所の高度な研究機能・成果を生かした新産業の開拓を進めます。さらに、サイエンスパークの拡張を視野に入れつつ、バイオ産業の集積に向けた取組を推進します。

健康づくり・医療分野の推進

がんなどの生活習慣病の早期発見や予防をめざした次世代健康診断の開発など、慶応先端研などの研究成果を生かしながら医療機関等との連携により、健康づくりと医療分野を推進します。

企業の創業環境の強化

企業の創業環境を充実し、多様な企業が連携、協働して相乗効果を発揮する活動を促進し、本市産業の裾野の拡大と強化を図ります。

>> 未来創造のプロジェクト

>> まちを活性化する

城下町つるおか リブランディングプロジェクト



松ヶ岡開墾150年(2021年)、酒井家入部400年(2022年)を契機に、本市の歴史と文化の顕彰と、街並みや景観の整備など城下町の風情の伝承を行い、城下町鶴岡のブランド化と高い潜在力を引き出し、市民の誇りとなるまちづくりを進めます。

>> 主な施策の方向

歴史文化の学びの充実と継承

藩政以来の本市の歴史と文化を顕彰し、学びの機会の創出や歴史と文化を学んで巡ることを楽しめる環境を整備します。

歴史的建造物の保存活用

歴史的建造物の保存活用を進め、街並みや景観などをより上質な空間になるよう整備し、城下町の風情を後世に守り伝えます。

戦略的な観光の展開

今年度新たに設立したDMO「DEGAM鶴岡ツーリズムビューロ」を観光地域づくりの司令塔として、本市の歴史と文化を生かした戦略的な観光促進を広く展開し、多くの来訪者を呼び込みます。



地域国際化SDGs※ 推進プロジェクト



オリンピックなどを機に増大が見込まれる外国人観光客や、労働需要の高まる外国人居住者に対し、国際化の対応を進めます。また、SDGsの基本理念に基づく食文化施策の展開や、外国人の受入環境の整備、地球環境に配慮した取組などを進め、持続可能な都市の実現をめざします。

※SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標の略称) 国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ(課題項目)」に記載された国際目標。

>> 主な施策の方向

外国人の受入・支援の充実

外国人居住者へのサポート強化や、外国人労働者の生活支援を進めます。さらに、今後増加が見込まれる外国人に対し、旅行しやすい受入環境の充実に努めます。

食文化を通じた国際的な課題解決の推進

国内唯一のユネスコ食文化創造都市として、食と食文化に関わる様々な取組を通じて、持続可能な社会づくりのモデルとなるよう世界に発信し、国際的な課題解決の貢献に寄与します。

自然環境を生かしたまちづくり

豊かな自然環境と多様な生態系を保全・再生して持続的な活用を進めるとともに、森林文化創造によるまちづくりを推進します。また、自立分散型の再生可能エネルギーの導入支援、気候変動への適応策などを推進します。

>> 計画の推進方針等

計画の推進方針

この計画の推進にあたっては、次の方針により進めます。

- 1 対話と協働による政策推進
- 2 国などへの提言要望と広域的な連携による政策推進
- 3 効果的で効率的な行財政運営

市民の声の反映

総合計画の策定にあたっては、各団体代表者や有識者等から構成される「総合計画審議会」、及び5つの「専門委員会」で、ていねいに協議を重ねてきました。また、市民一人ひとりの「声」を聴くことを重視し、ワークショップ(計3回)や市民説明会、地域振興懇談会等のほか、パブリックコメントでいただいた幅広い意見を計画に取り入れています。



計画の体系

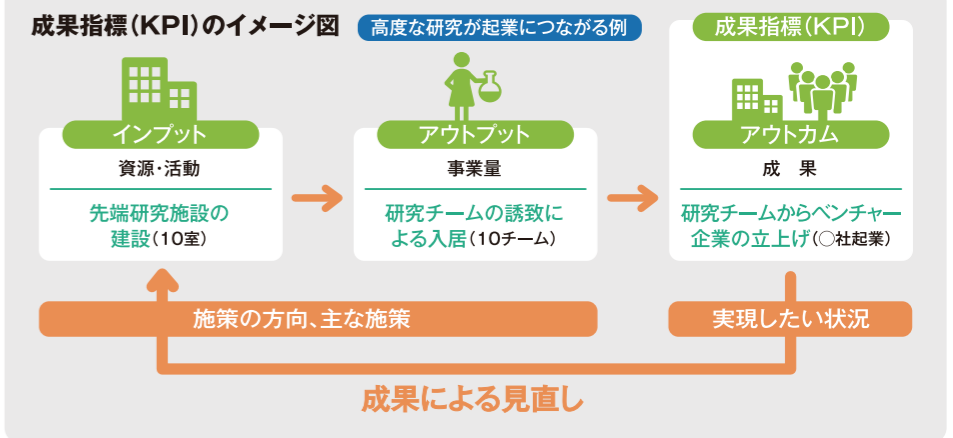
未来をつくる3層で構成



PDCAサイクルによる計画の進行管理

PDCAサイクルとは、Plan(計画)→Do(実施)→Check(評価)→Action(改善)の頭文字をとった、計画の進行管理を行う手法の一つです。

社会や時代の変化に対応しながら、効果的・効率的な行政運営を進めるため、主な施策の達成度を測る「成果指標(KPI)※」を設定し、PDCAサイクルによる進行管理を行います。



※KPI(Key Performance Indicators:重要業績評価指標) : 課題の解決に向けた取組の達成度を定量的に測るための指標。達成度を数値化することで、施策の有効性や問題等の評価が容易になり、施策や事業の見直しを図るための指標として用いられる。